

教育部会自己点検・評価シート（様式1）

全学共通教育についての自己点検・評価報告書（教育部会会）

教育部会名：外国語第 I 教育部会

部会長名：横川博一

作成者名：横川博一

概要（2000 字）

1. 運営体制

外国語第 I 教育部会の企画運営に関しては、下記の組織を通じて行なった。

(1) 幹事会（月 1～2 回、随時開催）

部会長：横川博一（全般、非常勤講師）

幹事： 島津厚久（教科書、予算）

幹事： 大和知史（時間割）

幹事： 加藤雅之（グローバル英語コース CALL）

(2) 英語教育企画委員会（国際コミュニケーションセンターに設置の委員会、毎月第 2 金曜日に開催）

(3) 英語教育部会（毎月第 3 金曜日に開催）

2. 授業・カリキュラムについて

従前の英語科目に加え、平成 25 年度に引き続き、新しい英語教育プログラム「グローバル英語コース（GEC）」をカリキュラムの充実を図るなどし、実施した。クラス数は 30 クラスほど増加したため、1 クラスあたりの学生数は低く押さえることができ、とくに 1 年後期～2 年前期にかけては、ほぼ 30 名程度の少人数クラスとなった。また、海外研修を単位化するなど、単位の実質化の面でも充実が見られた。

英語オーラル I、II、II（理系学部向け特別編成クラスを含む）、III、III 再履修

英語リーディング I、II（理系学部向け特別編成クラスを含む）、III、III 再履修

GEC 英語オーラル II、III、海外研修

GEC 英語リーディング II、III

英語アドバンスト科目 A, B, C（一般クラス用、GEC クラス用）

(1) グローバル英語コースの充実・実施

グローバル人材育成推進事業の一環として、平成 25 年度に英語において、グローバル英語コース（GEC）を導入した。平成 26 年度も引き続き、文系・社会系学部の 1 年次学生の中から、原則として、外部試験の成績により、約 250 名の学生を選抜して、後期から授業を開始した。合わせて、KALCS にライティング・セミナーを開設し、夏季・春季休暇において英語セミナーを開催するなど、学生の英語運用能力向上の一助となった。

今年度は、GEC を留学準備コースと位置づけ、1 年次後期終了時の春季期間中に短期留学を行う PSA クラスと、長期留学を予定している GEM クラスに編成した。また、短期留学には 80 名弱の学生が参加し、グリフィス大学、オークランド大学の 2 か所で実施された。帰国後のアンケート調査では 90%の学生が満足したと回答している。また、95%の学生が、英語オーラル II および英語リーディング II の GEC の単位を修得した。

(2) 特別編成クラス

理系学部では、平成 24 年度まで「英語オーラル II」にだけ設置していた特別編成クラスを、今年度も継続して「英語リーディング II」においても実施した。本年度の受講

者は「英語オーラルⅡ」が 65 名、「英語リーディングⅡ」は 61 名であった。

(3) 平成 28 年度からの英語教育改革案

平成 27 年度からの国際教養教育院の設置、平成 28 年度からの 4 学期制導入など、さらなるグローバル人材育成をめざす教育改革に鑑み、外国語教育第 I 部会内に、英語教育部会長、幹事 2 名、国際文化学部教員 3 名の計 6 名から成るワーキンググループを設置し、設置科目・目標、学年配当などのカリキュラムなどの改革案について検討を進めた。

3. 英語部会の FD 等の取り組み

外国語第 I 教育部会では、今年度、国際コミュニケーションセンター主催の公開外国語教育セミナーや外国語授業ピアレビューに参加するかたちで、FD 活動を行なった。

また、平成 27 年 3 月 9 日開催の外国語科目担当教員ガイダンスの分科会において、FD 活動の一環として、授業紹介を行い、意見交換を行った。

2014 年 8 月 4 日 (月) 13:20~15:20

「教室を超える：外国語学習から外国語使用へ」(第 12 回外国語教育セミナー)

Beyond the Classroom: From Second Language Learning to Second Language Use>

パネル/Panel

Adam Brandt (Newcastle University)

Rainar Larsen (University of Southern Denmark)

Chris Leyland (Kobe University)

Tim Greer (Kobe University)

2014 年 12 月 5 日 (金) 9:50~12:10

「外国語教授法・教授コンテンツを考える」(第 14 回外国語教育セミナー)

9:50~10:20 ピアレビュー

○石川教授 (英語)

○ウァン特任准教授 (英語)

○廣田講師 (フランス語)

10:40~12:10 講演

金丸敏幸先生 (京都大学)

題目：「外国語教育におけるカリキュラム・教授法・コンテンツの再考：

京都大学の取り組み」

4. 自己点検・評価報告について

今年度は、グローバル英語コースの学生選抜の方法に若干変更を加え、PSA および GEM クラスの性格づけなども新たに見直し、さらに授業カリキュラムの改善・充実を図るなどした。とりわけグローバル英語コースでは、PSA において担当教員が共通シラバスを作成し、共通教科書を採用するなど、これまでにないかたちの授業が行われた。

また、平成 28 年度からの英語教育カリキュラム改革についての検討を開始し、4 学期制への対応や、理系クラスへの拡大を視野に入れて、部会内にワーキンググループを設置するなどして英語教育改革案を検討した。

自己点検・評価報告書の結果、おおむねすべての観点について「はい」の回答を得たがあったが、6-1-②では若干否定的な評価もあった。これは、学習成果の上昇の判断材料として、学生アンケート以外に求めることは難しいが、そのアンケートへの回答分母が小さいためごく少数の学生の判断に寄らざるを得ない面があったためと思われる。

項目・観点ごとの記述

基準5 教育内容及び方法

5-1 【教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）が明確に定められ、それに基づいて教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準が授与される学位名において適切であること。】

5-1-③： 教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮しているか。

観点に係る状況（150字以上：192字）

「英語リーディング」「英語オーラル」とともに、新聞、ウェブサイト、雑誌等の記事など、現代的でアップデートな素材を扱うとともに、CALL室でのWEB環境を利用して、TEDなどのプレゼンテーションサイトを活用している教員が多くみられる。また、英語音声指導や語彙指導をはじめ文章理解や発話の認知メカニズムなど、教員の研究分野での成果が授業の中で行われる指導やタスクに取り入れられている例も多く見受けられた。

根拠資料

- ・シラバス
- ・世界で広く読まれている雑誌をもとに作成された教科書
- ・授業中の配付教材
- ・学習管理システム(Moodle)上における掲示、参考情報

5-2 【教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。】

5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法が採用されているか。

観点に係る状況（150字以上：222字）

英語科目については、一方的な講義で受動的なスタイルの授業はなく、多くの授業において学生が自ら課題に取り組み、深い思考を可能にする、いわゆるアクティブ・ラーニングが広く実践されている。また、いずれの科目においても複数の技能統合型の授業が展開されており、適切な組合せの授業が行われている（例：「6モジュール形式で多様な言語学習活動が成立するよう配慮を行っている」「リーディングの授業ではあるが、リスニングやライティングとの連携にも配慮した」など）。

根拠資料

- ・シラバス
- ・教材
- ・Pre- and Post-tests given in class, and records on mreader website
- ・シラバス（あらかじめ授業で訳出するテキストの範囲を指定し、予習を指示した）

5-2-②： 単位の実質化への配慮がなされているか。

観点に係る状況（100字以上：125字）
予習や準備を前提とした小テストや授業内活動が行われていたり、ウェブサイトや Moodle を活用するなど、授業と連動した授業外課題が与えられるなど、すべての授業において、なんらかの形で授業準備が必須になっており、さまざまな方法で単位の実質化への配慮がなされている。

根拠資料

- ・ シラバス
- ・ 課題（毎回提出）
- ・ 小テスト（毎回）
- ・ 中間・期末テスト
- ・ 授業中の配布資料
- ・ Use of online services for learner autonomy

5-2-③： 適切なシラバスが作成され、活用されているか。

観点に係る状況（50字以上：165字）
うりぼーネット掲載のシラバスには、授業の目標、内容、成績評価方法および基準等が適切に記載されており、このことは幹事会でも点検を行い、確認している。外国語第I部会では、各科目の目標を統一して定めており、各科目の趣旨を生かしつつ、個別の項目については各教員が学部等の特性に応じて工夫し、受講学生の学習意欲喚起につながるよう配慮している。

根拠資料

- ・ シラバス（教務情報システム）

5-2-④： 基礎学力不足の学生への配慮等が行われているか。

観点に係る状況（100字以上：115字）
オフィスアワーの設定による個別の学生指導、小テストや複数回試験等の実施などによる学習意欲の喚起と到達度確認、Moodle 等を活用した授業資料および予習課題の提示など、各教員がクラスの特性に応じて、基礎学力不足の学生に対する配慮を行っている。

根拠資料

シラバス、自己点検・評価報告書

5-3 【学1位授与方針（ディプロマ・ポリシー）が明確に定められ、それに照らして、成績評価や単位認定、卒業認定が適切に実施され、有効なものになっていること。】

5-3-②： 成績評価基準が策定され、学生に周知されており、その基準に従って、成績評価、単位認定が適切に実施されているか。

観点に係る状況（100字以上：124字）
成績評価方法および基準等は、うりぼーネット掲載のシラバスおよび教員が授業で配布するシラバス等において説明し、受講学生に周知されている。成績評価の対象（試験、授業内外の活動および課題など）と評価基準およびその割合を各教員が定め、その基準にしたがって成績評価が行われている。

根拠資料
・シラバス
・Regular monitoring of performance in class, and at home (using online services), plus individual consultations in and after class
・成績の分布表

5-3-③： 成績評価等の客観性、厳格性を担保するための措置が講じられているか。

観点に係る状況（100字以上：148字）
すべての英語科目において、成績評価の内容とその基準や配分などがシラバスに明記されている。また、授業内で行う活動やプレゼンテーション課題などについても評価基準が定められていることも多い。これらの点は、授業内においても受講学生に説明・周知が適宜図られており、その基準にもとづき成績評価が行われている。

根拠資料
シラバス、自己点検・評価報告書

基準6 学習成果

6-1 【教育の目的や養成しようとする人材像に照らして、学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について、学習成果が上がっていること。】

6-1-②： 学習の達成度や満足度に関する学生からの意見聴取の結果等から判断して、学習成果が上がっているか。

観点に係る状況（100字以上：188字）
概ね、本観点で要求されるような十分な成果を上げていると判断することができる。根拠資料としては、学生授業評価に言及した回答が多かった。しかし、この方法については、「この質問項目の証憑データとして授業評価アンケートの数値を記録させることは、アンケートの性質を変容させる恐れがあり、またアンケート導入当初の確認事項にも抵触することから問題が多く、賛成できない。」という意見があった。

根拠資料
・答案、学生授業評価

基準7 施設・設備及び学生支援

7-1 【教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され、有効に活用されていること。】

7-1-④： 自主的学習環境が十分に整備され、効果的に利用されているか。

観点に係る状況（50字以上：165字）

国際コミュニケーションセンターが企画・運営しているランゲージ・ハブ室、CALL教室の自習用開放および e-learning 教材の整備、KALCS におけるライティング支援および英語プレゼンテーションセミナーなど、教室外外国語学習環境について、初回の授業において『外国語教育ハンドブック 2014 年度版』にもとづき、全学生に周知を図っており、多くの学生に利用・活用されている。

根拠資料

『外国語教育ハンドブック 2014 年度版』、国際コミュニケーションセンターウェブサイト

7-2【学生への履修指導が適切に行われていること。また、学習や課外活動等に関する相談・助言、支援が適切に行われていること。】

7-2-①： 授業科目のガイダンスが適切に実施されているか。

観点に係る状況（100字以上：205字）

外国語教育部門では、前年度3月に外国語科目担当者ガイダンスを行い、英語および未修外国語のそれぞれの初回の授業において、各教室で授業オリエンテーションを行うこととしている。そこでは、神戸大学での外国語教育の全体像を示し、辞書や学習方法、TOEIC/TOEFL などの受験案内、国コミの支援施設などを紹介し、大学4年間における外国語教育カリキュラムの全体像を学生が把握し、専門科目との連続的な学習計画を立てることができるようにしている。

根拠資料

・『外国語教育ハンドブック 2014 年度版』

7-2-②： 学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されており、学習相談、助言、支援が適切に行われているか。

また、特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への学習支援を適切に行うことのできる状況にあり、必要に応じて学習支援が行われているか。

観点に係る状況（100字以上：191字）

専任教員はオフィスアワーを通じて、また、非常勤講師の場合は授業の前後の時間を学生の質疑応答の時間にあてて、学習相談などを行うなどして、学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されている。また、支援が必要な学生に対しては、部会長および幹事会が中心となって、必要に応じて、学生本人、保護者、授業科目担当教員、共通教育グループなど事務方とも連携しながら、授業科目の履修のサポートを行った。

根拠資料

・シラバス
・面談記録など